



会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

松澤 康男（農昭41卒）

先の見えない新型コロナ禍の中、峰ヶ丘同窓会会員の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。私は、6月中にワクチン接種（2回）を終えて一安心したところです。

地球は46億年前に、ウイルスは30億年前に誕生したという。しかし人類にはまだ20万年の歴史しかないそうです。ヒトの遺伝子の総体（ヒトゲノム）の約10%はウイルス由来の遺伝子で、そのなかには子孫を残すために必須の遺伝子さえあり、ウイルスの遺伝子の力を借りなければ、人類の継続性が保証されません。実は人類は何万年も前からウイルスと共存・共生してきたのだという。為政者が唱える「ウィズ・コロナ」の時代のコロナ禍対策は、共存・共生の掟に叶うものなのでしょうか。

イギリスで詠まれた詩の中に「私とは私が出会った全て

の人のことを言う」という一節があるそうです。確かに私たちはこの世に生を受けるや、親、兄弟、友人など数限りない他者をみて、その関り（交わり）のなかで自己を創りあげます。その上、自己は他者のみならず大自然、そして人知を超えた世界（領域）との「関り合い」の中に存在していると言われています。この「関り合い」をより広く、深く保つことで社会的、精神的、さらに身体的な安寧さえも得られるといわれています。人間の英知がコロナ・ウイルスの撲滅ではなく、ウィズ・コロナの道を選んでパンデミックを回避することができるかと案じている昨今です。

同窓会の目的は、大学（学部）への支援と会員相互の親睦を図ることであると記されています。峰ヶ丘同窓会の常任理事の皆様には、大学の教育、研究、社会貢献等の環境が激変する中、極めて多用な本務のかたわら同窓会の活動に取り組んでいただいているところです。ここに感謝し、引き続きご尽力して下さいますようお願いいたします。

峰ヶ丘同窓会の皆様におかれましては、私たちが「関り合い」の存在であることに心を留められ、このコロナ禍の克服・回避に鋭意務められて、新しい「その時」を迎えられますように祈念しております。



学部長就任挨拶

農学部長

山根 健治

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より農学部へご協力を賜り、誠にありがとうございます。私は本学に30年間お世話になっておりますが、本年4月から学部長に任ぜられまして一言ご挨拶申し上げます。

世界人口が80億人に近づき、気候変動も激しさを増す中、本学部の役割は重要性を増しています。本年度から、東京農工大学連合農学研究科に加え、宇都宮大学先端融合科学専攻においても博士（農学）を授与できるようになりました。現在はコロナ禍のためオンラインが主体ですが、米国パデュ大学をはじめ、世界の多くの大学と交流や共同研究を行っています。昨年度から大学の世界展開力強化事業「アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム」にも採択され、国際学部と農学部が中心に進めています。

THE世界大学ランキングにおいて、本学は教育面で日本62位、SDGs面では世界401-600位と健闘しております。

また、学位授与機構による最新の法人評価においても、本学部の教育活動は相応の質、教育成果は高い質、研究活動は特筆すべき高い質、研究成果は高い質と、高い評価を頂きました。教員個人も、園田昌司教授が「応用動物昆虫学会賞」、岩永将司准教授が「日本蚕糸学会賞」、そしてバイオセンターの岡本昌憲准教授が「日本学術振興会賞」を受賞する等、顕著な成果をあげています。

しかし、本学部は100周年を前に大きな岐路に立たされています。若い世代の農林水産業への実体験が薄れ、少子化も相まって、本学部の認知度と入試倍率の低下が深刻化しています。近隣の福島県や群馬県にも農学系学部が設立され、競争も激しくなりました。教職員一同、まずは学生への手厚い教育や地域社会に貢献する研究を通して、学生、ご家族および地域の方々にも喜んで頂くことや広報活動の強化が必須です。

とは言え、最も強力なステークホルダーである同窓生の皆様のお力添えが必要です。皆様におかれましては、本学での学びや社会で実践されたこと等を、ご家族や身の回りの人達に語って頂きたいと思っております。皆様のご発信により、一人でも多くの小中高校生が本学部を目指してくれることに繋がると確信しております。コロナとの戦いも厳しさを増しておりますが、引き続き、皆様のご健勝とご活躍、そして本学部への変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。